

ISN-ESN 2017 に参加して

西野 尋紀

(首都大学東京大学院 理工学研究科生命科学専攻 神経分子機能研究室)

私は ISN-ESN 2017 よりトラベルアワードを頂き、2017 年 8 月の学会に参加しましたのでここに学会レポートとして報告させていただきます。

私は初の国際学会への参加に加え、初めての海外でした。そのためパスポートをとることや外国行きチケットを取ること自体が初めてでした。海外への期待や不安もありましたが、学会直前は準備に追われており、そのことを気にすることがありませんでした。私は長時間のフライトは初めてでしたが、出発が 2 時間ほど遅れるなど不安の残る始まりとなりました。合計 30 時間の移動は疲れましたが、体力のあるうちにしかできない貴重な体験が出来たと思います。フランスの空港では入国審査があると思っていて緊張していましたが、質問などはなく通過でき、一安心でした。パリ市内は景観が非常に整っており、とてもいい町でした。治安への不安もありましたが、無事に過ごせてよかったです。順調に会場に到着し、学会が始まりました。学会で 1 番感じたことは口頭発表が非常に面白かったことです。どの発表も興味深く、中には論文として読んだものもありました。私自身のポスター発表では「Dendritic spine formation is regulated by Lemur kinase 1A (LMTK1A) via Rab11A-positive endosome trafficking」というタイトルで発表を行いました。LMTK1、Rab11A のような膜輸送を制御する因子がスパインの形成に関与していることを報告しました。発表では議論を通して、良い意見を頂くことが出来ました。これまでに参加した学会では無かった新しい視点の質問も頂きました。さらに説明の中で使う英文が伝わりにくいものがあり、それらに気づき、修正する良いきっかけにもなりました。国際学会の参加者は博士課程やポストドク以上の方が多く感じ、国内の学会よりも年齢層が高いと感じました。私は修士の 2 年生でかなり若い参加者であったと思います。しかし、国際学会への参加が早すぎるとは思いませんでした。国際学会は世界中の良質な研究に触れる機会であり、自分の視野を広げる良いチャンスです。アカデミアに進むか就職するかで迷っている方には非常に良い経験になると思いますので是非、参加してみてください。

最後になりましたが、本学会の参加にあたってご指導頂いた久永眞市教授、参加にあたりご尽力頂いた日本神経化学会の皆様に深く御礼申し上げます。